

「(第4回 クリエイティブ・サービスにおけるアジア・米国比較ワークショップ) 参加報告書」

京都大学経済学部5年 (道田優作)

今回の派遣では、シリコンバレーで注目されている様々な企業を訪問しご活躍されている方とお話しする、現地の学生と文化的背景が日本・アメリカそれぞれの国のサービスに与える影響について議論するという2つの活動を主に行いました。企業訪問では Google や Apple といった世界有数のイノベーター企業から、インキュベーターや従業員数名のスタートアップまで幅広く行き、現在それぞれの企業や業界の流れや進行中の事例等を教えて頂きました。職場見学や働き方に対する質問なども通じて、日本企業との違いを明確に発見できました。現地学生との議論では、スタンフォード大学の博士課程の学生に対して「文化の違いがシェアリングエコノミーサービスに与える影響」をテーマとしたプレゼンテーションを行い、お互いの意見に対して議論を交わしました。アメリカ文化に対する私たちの考えが批判されたり、日本文化に対するアメリカ人の印象が私たちの予想と異なっていたりするなど実際に現地の学生と話さなくては分からない学びが得られたと思います。

学習成果として、私は特に3点のことが挙げられると思います。

1点目はシリコンバレーで多くのイノベーションが起こる理由にシリコンバレー特有の常に人とコミュニケーションが図れる環境が深く関わっていると感じたことです。それを示すものとして無数に存在するカフェが目につきました。企業内部には多くのカフェがあり、グーグルを例に挙げると100以上のカフェがキャンパス内に存在するとお聞きしました。町中にも多くのカフェがあり、企業を超えた関わりを持つことができます。こうした場で促進される他社との関わりこそがイノベーションを生み出す源泉になっていると感じました。

2点目はシリコンバレーで働く人が持つイノベーションに対する考え方です。「私たちはイノベーションを起こそうとしているのではなく、重要な問題を解決しようとしている。」これは現地で会った多くの方が口にされていた考え方です。インキュベーターで働く方も、投資基準として何を解決しようとしているのかを見るところをお話しされていました。私は大学でイノベーションを勉強する中でどうしたらイノベーションを起こせるかに関する数多くの方法論や概念などを学習してきましたが、そういったもの以上に問題の解決というマインドセットを持つことがイノベーションを起こすことにつながるのではと考えさせられました。

3点目は日本でサービスを拡大するには、世間に認めてもらふ必要があるのではないかという考察が得られたことです。日本に存在する失敗を恐れる文化に対して、規制を受けるウーバーやエアビーアンドビーといったシェアリングエコノミーサービスを展開すべきかを現地学生と議論を重ねました。そして結論として私たちは、世間に認められるサービスであることが規制を超え、そして、規制を変えサービスを拡大することにつながるのではという考察に至りました。この視点は行く前の自分たちにはなかったものであり、異なる文化を持つ現地学生と議論できたからこそ考えつくことができたと感じています。

最後に進路への影響として、将来的に海外の大学でMBAを取りたいという気持ちを持ちました。1週間という非常に短い期間でも上記に述べた学びでは書ききれないほどの発見がありました。そんな経験が得られたのは活発でクリエイティブな人達と接することができたからであり、そういった環境でこそ自分は飛躍的に成長し、様々な視点や自分の考えを持つことができると感じました。私はそれこそがMBAであり、スタンフォード大学やカリフォルニア大学といった世界有数の大学を自分の目で見て、学生と話すことで、将来的にここで学びたいと強く思いました。今回のシリコンバレーでの経験を今後の人生で活かせるよう日々努力していきたいです。